

2016年度 決算説明会 質疑応答要旨

お断り：この要旨は決算説明会での質疑をご参考として掲載するものであり、一部補足を含め簡潔にまとめさせていただきました。ご了承ください。

記

1. 開催日 : 2017年5月16日(火)
2. 場所 : 本社会議室
3. 質疑応答内容:

<Q1>

資料 P.17「当社グループを取り巻く事業環境」では、廃棄物処理が減少トレンドで、水処理が増加トレンドと見受けられるが、そのように中期経営計画を見直す可能性があるということか？

2020年度目標の数値では、水処理が廃棄物処理を上回っているが、今後も続くということか？

<A1>

水処理関連事業と廃棄物処理関連事業は、当社の両輪と捉えており、市場環境に合わせて両方とも強くしていきたい。

水処理を取り巻く市場環境に於いては、廃棄物処理にてここ数年進んできた、民営化、民活の動きが強くなっているため、そこにビジネスチャンスがあると考えている。

廃棄物処理に於いては、国内市場では長期包括のようなストックを積み重ねることにより、安定的な事業運営を維持し、海外でのビジネスチャンス、成長の機会を追求していきたい。

国内・海外をまとめたセグメント単位での事業パフォーマンスは、将来的に廃棄物処理、水処理ともに成長させていきたい。

<Q2>

資料 P.24 に播磨製作所の生産性向上のための積極的な設備投資とあるが、具体的な時期、金額について教えてほしい。また、生産効率はどれくらい上がるのか？

<A2>

播磨製作所では鋼材の切断、ロール、溶接、製缶、グラスライニングでのガラスの吹き付けなどの工程があり、各工程の設備投資額は、1件当たり数千万円の規模である。

今年度は鋼材の切断工程の合理化、生産性向上を中心に設備投資を行う。生産効率は1割程度上がると見込んでいる。

<Q3>

資料 P.30 の木質バイオマス発電事業では、予定以上の燃料搬入量を確保しており順調とのことだが、その要因を教えてほしい。他の木質バイオマス発電事業では輸入材を混焼しているところもある。

<A3>

事業を構成する要素として、地域との連携という経営的な側面、運転の安定という技術的な側面の両面がある。

経営的な側面では、この事業の根幹は未利用の間伐材を使用することであり、輸入材に頼らない、つまり林業の再生とセットで、その地域との連携を図るといのが大きなコンセプトの 1 つである。地域のバックアップが非常に心強く、福井県、大野市、当事業の出資者の九頭竜森林組合を始めとする森林組合の皆さんの大きなご支援、ご協力により、間伐材も順調に確保できており、これが現在の成功の一因と考える。地元の森林組合の皆さんと長く良好なお付き合いをさせていただけるように努めていきたい。

また、技術的な側面では、今回、流動床式ガス化燃焼炉を初めて採用し、当初、やや慎重に稼働率 85% を目標に運転を開始したが、ガス化熔融炉で培った、原料性状に応じた空気量配分などの運転方法、シミュレーション技術を駆使しながら、稼働率約 98% と、ほぼ計画通りの運転を想定よりも前に達成した。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社の現在把握している情報、及び合理的であると判断する前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。

以 上